

「ホットスポット」千葉県柏市長と「問」答60分

心から反省しています

首都圏有数の「ホットスポット」として、本誌が放射線量測定を続けてきた千葉県柏市。これまで「除染」に消極的だと批判されてきた秋山浩保市長が、初めて取材に応じた。

千葉県柏市の秋山浩保市長

(42)が、今や時の人だ。柏市は、放射線量が周囲の地域より高い「ホットスポット」。直近の東京地区による測定(8月8日)でも、柏の葉公園が毎時0・50マイクローシールベルトと「高止まり」している。

また、7月7日には自身のブログで、精神科医の香山リカ氏の論考を引用しつつ、市長自身が「(原発・放射能問題に関心があるのは)社会に精神的に適応できない方が多い」と、放射能の問題に熱心な「柏市民」こそが「社会不適応」だといわんばかりに書き、ネットを中心に批判的に。引用元の香山氏は誤解を招くと陳謝し、秋山市長もそのブログをあっさり削除した。

強気姿勢はどいかに

その秋山市長にインタビュースると、強気姿勢は一変していた。小さな子どもを持つ母親を中心とする市民が放射線量の「高止まり」を不安視している

ことについても、理解を示した。

「私自身は『安全』だとは思っているが、『安全』と『安心』とは違います。私の感覚では、『何となく不安』な市民の方が多い。その方々に安心感を持つていただく説明、対策が必要だし、必要だったと痛感しているところ。学校などで積算被曝がどれほどあるかを示して『安心感』を持っているかどうか、と準備をしている最中です」

しかし柏市はこれまで6月2日に提出された柏市民1万49

2人の「放射線対策を求める」署名も事実上黙殺。放射線量の低減策の第一選択である「除染」すら行っていない。だが、ここに来て市長の態度は急変した。

「夏休み前から市の方針として、公立の小中学校、保育園で毎時1マイクローシールベルトを超えるところは、ピンポイントで吹き

「夏休み前から市の方針として、公立の小中学校、保育園で毎時1マイクローシールベルトを超えるところは、ピンポイントで吹き

や葉波国際後、柏市に就任。1968年、千葉県柏市出身。柏市立第三中学校卒業。柏市立第三中学校教員を経て、2009年11月、柏市長選挙で初当選。市長就任。



だまりの清掃などの「除染」をすることにしました。ピンポイントなら簡単にでき、実際に年間被曝量を1ミリシーベルト以下に抑えることにも寄与します」

次のような言葉も口にしました。

「除染」は安心のための側面が強い。その対応が遅かったと言われればその通りです。私はICRP(国際放射線防護委員会)や政府の基準などをもとに『安全』だと判断してきたので、『何となくの不安』に向き合うのが遅かったのは反省している。早く早めに取り組むべきだった」

口をつくのは「お詫び」

市が無策だったため、5月下旬から6月中旬にかけて、市民自身が「除染」を行った。その際にも市は具体的な除染の方法、基準、除染後の処理方法を示さなかった。そのため、放射性セシウムなどを含んだ草や木が「ゴミ」として出され、処理過程で濃縮。その結果、市内の清掃工場と最終処分場で6月24日に採取された焼却灰から、国の暫定基準「1キロあたり8千ベクレル」を10倍近くも上回る、1キロあたり最高7万800ベクレルの放射性セシウムが検出されたのだ。これについても市長は謝罪を口にしました。

「これは言い訳だが、環境省もあまりの高濃度に驚いていた。ただ測定、調査自体が遅いと言われれば、おっしゃる通りで、本当に申し訳ない」

だが、本誌8月1日号でも詳報したように、6月4日から22日まで、3回にわたって、最終処分場に南部クリーンセンターからの焼却灰(溶融飛灰固化物)25トン、周辺住民に知らせることなく、密かに埋め立てていたことも明らかになっている。この問題でも秋山市長は低姿勢でこう口にした。

「住民の方とお話し合いをしている途中。埋めたときには気づいてはいなかった。これは本当に迷惑をかけた。5月ごろに(清掃工場などの)測定をしていけば防げたことで、お詫びをしないといけない」

そして市民の怒りに火をつけた7月7日のブログ。この内容は市民間に分断を生み、放射能を怖がる人は「おかしな人」というイメージを生んだ側面もあるように思えるのだが――

「もし、そう受け取った方がいたら申し訳ない。私はそういった意図では書いてない。ご迷惑をかけた人がいたなら、お詫びをしないといけないと考えています」

編集 岩田智博